



夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究>
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

石井桃子から学ぶ ⑤ 絵本の言葉

うさこちゃん誕生

◆1964年に日本で出した本です。1963年にアムステルダムでオランダ語でこの本が出たばかりでした。最初に4冊でたんです ◆ちようど赤



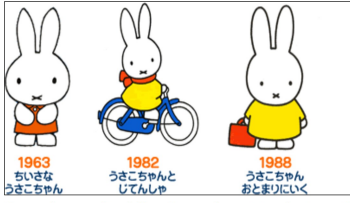
ちゃんの絵本ができる、作れる可能性があるんじゃないかってことで、ヨーロッパの図書館をずうっと回りました。◆出版社も回りました ◆その時に、アムステルダムの図書館で「できたばかりの本です。これはオランダの本です」ってことで、館長さんがオランダ語を英語に訳して話をしてくださったんです ◆それがこの

本で、私はこの本を見た時に、正直言いますと「あ、これは売れる」と思いました ◆で、帰ってきたら、うさこちゃんの本が4冊送られてきたんです。

言葉に対するセンス

◆それで、「こういうものの訳をできるのは石井先生以外ない」と私は思っていました ◆石井先生にお願いしたんです ◆そしたら、石井先生はオランダ大使館へいらして、オランダの方にオランダ語の訳を、オランダ語を読んでもらってオランダ語の響きをちゃんとお聞きになるんです ◆日本語には日本語の調べっというのがありますし、それぞれの国の言葉にそれぞれ別の音、耳に聞こえる時の音の響きがありますから、それを石井先生はちゃんと確かめて、オランダ

語で「ネインチェ」って言葉で「うさこちゃん」という日本語に置き換えられたんです ◆こういうところにも、私は石井桃子って人のほんとは「言葉に対するセンス」に感心します ◆あのブルーナーさんの本の本が外国に出たのは日本です ◆だから、ブルーナーさんは今でも、たいへん日本を大切に考えてくださっているんです。



◆これが真四角な本だったことも、これはオランダの文化そのままです。オランダってのは、中心性と正面性が、非常に文化の中ではつきりしてあります ◆オランダは山がない国です。

国の文化や 特色を反映

全部まっ平らです。まっ平らの所に人間が、ちゃんとこう立っています。構成が、オランダ人が生活している日常生活で ◆それぞれの本の中には、それぞれの民族のあるいは国のそういう文化や特色っていうものが表れているし、それが表れていないような無国籍な作品は駄目です ◆石井先生がそういう一つの口火を切ってくさって、そして私はそこからたくさんものを学ぶことができました。



◆絵本というのには「大人が子どもに読んでやる本」で、そして大人と子どもが、「読み手と聞き手が一緒にいて共通の体験、体験を共有すること」、これが非常に大切で、その時に言葉っていうものに子どもの中に染み込んでいくんですね ◆だから、絵本の文章ってのは、吟味に吟味を重ねていかなければならぬ。最高の日本語、それを作らなければならぬんです。

絵本の テキストが決め手 ◆ことに言葉。絵本は絵だけではないんです。今、特に大切なのは「絵本のテキスト」です。「言葉」です。ほんとに日本語として、これがちゃんと「質が高いかそうでないか」

てことを見極めないといけないんです ◆ほんとに最高の日本語を、そして選り抜いた言葉、それを見事な組み立て方で、そして子どもたちに、それを皆さんが自分の声で語ってやる。その時に、子どもたちの中に読んでくれた人、その物語の楽しさと読んでくれた人のことが、ちゃんと定着して生誕忘れません。

絵本とは

（つづく）